

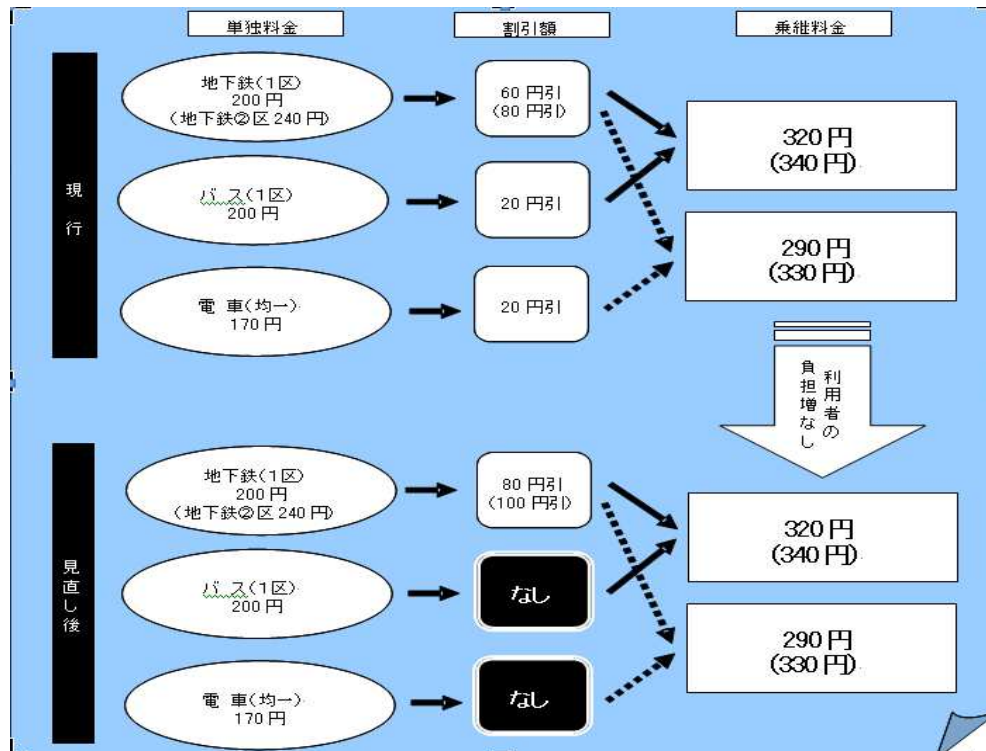
## 乗継割引制度の見直しについて

### 1 経緯

- 平成 22 年 10 月 5 日 バス事業 3 社より申入れ
- 平成 22 年 10 月 29 日 交通部会で審議
- 平成 22 年 12 月 7 日 市議会経済委員会に説明、質疑
- 平成 23 年 4 月 1 日 乗継割引の見直しを実施

### 2 見直し内容

当分の間、地下鉄の割引額を 20 円拡大することで、利用者の負担増を招かずに乗継割引制度を継続させ、バスと地下鉄のネットワークの維持を図ることとした。



### 3 乗継割引見直しの影響額 (H23 年度予算)

- 路面電車・乗継割引廃止のため、35 百万円増収となる。
- 地下鉄・バス・路面電車の乗継割引を地下鉄側で負担のため、629 百万円減収となる。
- バス事業・乗継割引廃止のため、594 百万円増収となる。

### 4 将来的な経費削減効果

SAPICAの電車・バスとの共通利用(H25 年度第 1 四半期)が実現すれば、磁気カードから IC カードへの転換が図られることとなり、ウィズユーザーに係る経費などを大幅に削減することが可能となる。

#### ■ SAPICAの普及に伴う地下鉄関係経費の増減 (年間)

- ウィズユーザー関連経費 (作成経費、プレミア) ▲ 571 百万円
  - 駅務機器に係る保守費用 ▲ 40 百万円
  - オートチャージサービス手数料 33 百万円
- ※ 経費効果額 578 百万円

### 5 経常収支への影響

SAPICAが普及するまでの間は、地下鉄事業の経営は一時的に苦しい状況になるものの、将来的にウィズユーザーシステムとの二重コストが解消されることにより、その負担は、5,000 万円程度まで圧縮することが可能となる見込みである。

629 百万円	-	578 百万円	=	51 百万円
(バス分+電車分)		(経費効果)		(負担増)